

コロナ禍だから
気がぬけない!

どうする!?! 今年のインフルエンザ対策

問 健康づくり課 ☎(24) 8070

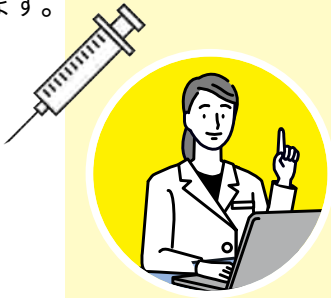
Point 1

インフルエンザ
予防接種を
受けるときの
ポイント

インフルエンザは、予防接種で発症や重症化をある程度予防できます。予防接種を積極的に受けて、インフルエンザと新型コロナウイルスのダブルパンチを防ぎましょう。

毎年1回受ける

インフルエンザワクチンの効果が持続する期間は5～6か月ほどです。流行するウイルスのタイプも変わるので、毎年1回(13歳未満は2回)受ける必要があります。



流行期前に受ける

インフルエンザの流行期は、12月～3月です。免疫ができるまでに約2週間かかります。流行する前に受けることが肝心です。



ハイリスク者は より積極的に接種を

インフルエンザのハイリスク者は、新型コロナウイルスのハイリスク者でもあります。

主なハイリスク者

高齢者、持病がある人*、肥満、妊婦、乳幼児 など
*心臓病、高血圧症、糖尿病、腎臓病、喫煙者など



なぜ対策が必要なのか

空気が乾燥するこれからの季節は、新型コロナウイルスの再流行が心配されます。再流行が冬季にかかる、インフルエンザの流行と重なってしまいます。

インフルエンザは発症すると新型コロナウイルスとの区別がつきにくい病気です。かかると重症化したり、肺炎を併発したりする危険性が高い「ハイリスク者」はどちらの感染症にも注意が必要です。

「インフルエンザかも…」
疑われる症状がある場合

インフルエンザの主な症状

インフルエンザにかかると、38度以上の熱や頭痛、関節痛、筋肉痛などの全身症状が急に現れるのが特徴です。

ただし、インフルエンザ以外の感染症でも同じような症状が出る場合があります。例えば新型コロナウイルスの主な症状は、このほかに味覚異常・臭覚異常があります。

発症から48時間以内に受診を

インフルエンザの治療薬が効くのは発症してから48時間以内です。それを過ぎると症状を抑えにくくなります。息切れ、